

# 研究推進校事業報告書

## <取り組みと成果のポイント>

- 「思いやりの心」を育む「道徳の時間」の充実を図るために、授業展開の工夫、資料の工夫、発問の仕方、ワークシートの工夫等に重点をおいて実践に取り組んだ。生徒の心を揺さぶる感動資料、モラルジレンマ資料等を使って生徒の心の変動を追究する授業を進めた。自分の考えをきちんと伝えることと他の人の意見を認めることができる生徒が増えてきた。
- 全校一斉道徳授業公開や道徳教育講演会など、全校・各学級での取り組みを通して、道徳教育の大切さを確認し、また保護者や地域の方々の参加により、学校・家庭・地域の連携と意識の共有化を図ることができた。

## 1 推進校の概要

学 校 名	所 在 地	電 話 番 号	児 童 生 徒 数
愛知県尾張旭市立西中学校	愛知県尾張旭市渋川町三丁目2番地9	0561(54)-1191	725人

## 2 研究課題

### (1) 学校の教育的課題を踏まえた道徳教育の重点化

- ① 人としての在り方や生き方の自覚を深め、豊かな心を育む道徳教育
- ② 社会と人の為に主体的に考え行動する態度を育み、公共心を高める道徳教育

### (2) 道徳教育の計画的な推進と道徳の時間の指導の工夫

- ① 話し合いを核とした豊かな学びを生み出す授業づくりの工夫
- ② 各教科・総合的な学習の時間・特別活動と道徳の時間を結び付けた道徳教育
- ③ 家庭や地域との連携による道徳教育推進の工夫

## 3 研究主題とその設定理由

### (1) 研究主題

「互いのよさを認め合い、共感をもって学び合う生徒の育成」  
— 思いやりの心を育む道徳教育をめざして —

### (2) 主題設定の理由

本校では、平成23・24年度と「自ら意欲的な学習に取り組む生徒の育成」という主題のもとに現職研修に取り組んだ。自分の考えを人に伝えたり、わかりやすく説明したりする授業を工夫して、生徒同士、生徒と教師が互いにかかわりあい、高め合えるような話し合い活動や考えを述べる活動を意識して行い、生徒主体の授業の中で学習意欲を高める工夫をしてきた。その工夫から生徒は自分の考えを広げ深めることができるようになった。また、友だちの考えにも耳を傾け自分とは違う考えを認めることにも繋がった。しかし、本校の生徒の課題の一つとして、自分の考えにまだ自信がなく、自分の思いや考えを授業や話し合いの場で積極的に伝えることができない生徒もいる。人間関係や学習で壁にあたった時に自分で考えて解決できる力はあるのに、直ぐに答えを求めたり教師や親に頼ってしまったりと自分の力で解決していこうとするたくましさ欠缺していると感じられることもある。たくましく生きる力をつけ自分を好きになり自分に自信をもち、自らの考えで積極的に発言や行動できるようにさせたい。そのためには、人とかかわりの中で、一層自分を積極的に表現させ、互いをよく理解し、自他を認め合い共感をもって学び合う態度を育てていくことが重要であると考え。各教科、領域・全ての教育活動を通して行われる道徳教育に重点をおき、「思いやりの心」を育てていきたい。それが、心の豊かさとなり、他人に対しても思いやりの言葉や態度となって表れてくる。人とかかわる様々な活動を通して、互いに認め合い、本校生徒のよいところをさらに伸ばし、誰もが「思いやりの心」をもって学校生活、家庭、地域で活躍できる生徒を育てたい。

# 道徳教育の全体計画

学校の教育目標

**「創造 実践 健康」**

生徒ひとりひとりを大切にする教育に務め、知・徳・体の調和のとれた人間形成をめざす

- ・自ら進んで学習し、創造性に富む人間を育てる。
- ・誠実で豊かな情操にあふれ、社会秩序を守り、勤労を尊び実践力のある人間を育てる。
- ・心身ともに健康で、たくましく生きぬくことのできる人間を育てる。

**互いのよさを認め合い、共感をもって学び合う生徒の育成  
— 思いやりの心を育む道徳教育の在り方 —**

互いのよさを認め合う生徒とは

自己肯定感を高め、他者理解を深め、よりよい人間関係をつくらうとする生徒

共感をもって学び合う生徒とは

約束や決まりを守り、まわりと協力しながら思いやりをもって活動する生徒

## 道徳教育の目標（西中がめざす道徳教育）

- 人としての在り方や生き方の自覚を深め、豊かな心を育む道徳教育の推進
- 社会と人のために主体的に考え行動する気持ちを育み、公共心を高める道徳教育の工夫
- 話し合いを核とした豊かな学びを生み出す授業づくりの工夫
- 各教科・総合的な学習の時間・特別活動と道徳の時間を結びつけた道徳教育の工夫
- 家庭や地域との連携による道徳教育推進の工夫

## 各学年の指導の重点

1年	○望ましい生活習慣を身に付け節度を守り、よりよい生活を築いていこうとする気持ちを高めさせる。 ○中学生としての自覚をもち、自主的に考え、行動しようとする気持ちを高めさせる。
2年	○自立の精神を重んじ、正しい判断力に基づき、誠実に行動して、その結果に責任をもとうとする気持ちを高めさせる。 ○勤労の意義を理解し、すすんで仕事に取り組もうとする気持ちを高めさせる。
3年	○勤労に対する理解を深め、社会への奉仕の姿勢と充実した生活を追究し、実現しようとする気持ちを高めさせる。 ○正義を重んじ、差別や偏見をもたず、だれに対しても公正・公平に接し、よりよい社会を実現しようとする気持ちを高めさせる。

地域社会・家庭	道徳	各教科	特別活動	総合的な学習の時間	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校と家庭や地域との連携を図り、地域の特色を生かした豊かな体験活動や生徒とのふれあいを通して道徳的実践力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の立場を思いやり、広い心で人に接する態度を育てる。</li> <li>・感動できる心と、自然や生命を大切にする心を育てる。</li> <li>・主体性をもって集団や社会に貢献する態度を育てる。</li> <li>・生徒の実態、成長に合わせた教材を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の目標を達成するとともに「生きる力」と道徳実践力の育成を図る。</li> <li>・自ら学ぶ意欲を高め、安心して自分の力が発揮できる授業の工夫を図る。</li> <li>・ていねいで温かいきめ細やかな指導により、基礎的・基本的学力の定着を図る。</li> <li>・互いに高め合う授業の工夫により、学習意欲を高め、学力の向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰とでも協力し合って、よりよい生活を築こうとする主体的態度を養う。</li> <li>・集団の一員として、体験活動を通して、道徳的実践力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会の課題や生徒にとって切実な課題、興味・関心がもてる課題に取り組むことで、自分の生き方を探究する力を養う。</li> <li>・体験的な学習を通して自己理解から自己啓発、自己実現へと進むことができる力を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食活動</li> <li>・清掃活動</li> <li>・短学活</li> <li>・部活動</li> </ul>

道徳性の向上と道徳的実践力の推進を図る場

道徳的価値観および、人間としての生き方についての自覚を深める場

社会生活を主体的に切り拓いていく力を養う実践の場

### 教育環境の整備の方針

- 生徒の「心の居場所」となる生活・学習環境の構築と整備に努める。
- 生徒が安心して学習に取り組める環境を整備する。
- 心穏やかに生活できる環境を整える。

### 授業規律

- 授業の準備をきちんとする。
- 2分前着席をする。
- あいさつ・返事をする。
- 人の話をしっかり聞く。
- 自分の意見・考えを発表する。
- 人の意見・話を聞いて受け止める

### 板書の工夫

- 場面や考え方の系統が一目でわかるように板書の構造化を図る。
- 授業のキーワードを書き、そこから派生していくように板書する。
- 図式化することにより、生徒の意識の流れを整理する。

### ワークシートの開発

- 「心に響いたことばや」授業の自己評価で振り返る機会を作る。
- 教師が授業を振り返り今後の指導に生かせるように工夫をする。

#### 4 研究の内容

主題に示した生徒像の実現をめざして、様々な教育活動を補充・深化・統合する「道徳の時間」の指導方法の研究を進める。また、より効果的に推進するため、外部講師を招いた計画的な研修を実施する。資料の分析や発問構成についての研修、講師の模擬授業を参観し、授業のあり方、進め方、生徒の心の揺さぶりを引き出す発問の仕方、感動を与える教材について実践的に研究を進めていく。

##### (1) 外部講師の指導・助言 研修内容

本校のスーパーバイザー 鹿児島県鹿児島市立桜丘東小学校教諭 大江浩光先生を外部講師として道徳教育の要である「道徳の時間」の充実に向けての研修を年間通して計画的に進めている。資料分析、授業のあり方・進め方、生徒の心を揺さぶる発問の仕方・発問構成、感動を与える教材について研修を受けた。

##### ① 第1回 研修

模擬授業「『夢』の授業」を3年生の学級にて実施。道徳の授業を成功させる基本的な心構えとして、生徒を信頼し心を込めてかわり続けることである。今どんな状態であっても必ずよくなると信じ、喜び、悩み、考え、思いなどを丸ごと認めていくことである。常に、生徒のよりよく生きようとする力を一緒になって引き出すことができ、一緒になって伸ばしていこうとする教師でありたい。それが道徳教育である。生徒一人一人が、「この家が好き、この学校が好き、この地域が好き」と心から思い、ここで学び育ったことを誇りにし、一生の支えとして生きていけるように、大きな夢や志を育て、一緒になって追い求めていく教師であることが生徒の成長に大きく繋がっていくことを学んだ。

<道徳授業の多用なパターンについての研修>

##### ア 心の二面性を葛藤させる資料

人間がもっている「弱い心(－)」と「強い心(＋)」に視点をあてる資料を用い、弱い心を全面否定するのではなく、弱い心も認め、強い心へもっていく授業。

##### イ 多様な価値が含まれた資料

モラルジレンマなどの資料の活用である。ポイントは、とった行為に視点をあてるのではなく、その理由付けを大切にする授業。

##### ウ 感動資料

主人公の生きざまを通して価値を悟らせる資料の活用。正しい情報を正確に伝えることが大切で、教師が空想した考えを示さない。

##### ② 第2回 研修

「故郷」を主題とした授業を作る研修を受けた。インパクトある魅力的な資料を使って、何をねらいとし生徒たちに何を考えさせたいのかを、教える側がしっかりした考えをもって資料を作らなければいけないことを学ぶ。

##### ③ 第3回 研修

「道徳性の発達について」の研修を受ける。道徳性は一般的な生活や人間関係を通してある程度は発達し、生活環境が指導・学習の役目を果たしている。家庭における自分の立場や家庭が行ってきた「しつけ」などが絡み合っただけでそのような思考が生まれている。その環境が欠落していれば、道徳性の発達は停滞すると思われる。だからこそ、家庭や地域と協力をし、道徳教育を進めていく必要があることを研修の中で学ぶ。

後半の研修では、提示された指導案からグループで選択をし、その指導案を基に授業の展開や生徒の心を揺さぶる資料について活発に話し合った。教師経験の豊富な教師の意見に傾く若手教師、熱く話す若手教師にアドバイスをするベテラン教師。「1時間の道徳の授業」の展開や発問の内容等について真剣に考え互いに学び合う研修会となった。

##### (2) 学校公開 (全校一斉道徳授業)

「自他の尊重」「夢を育てる」「自己理解 他者理解」「よりよく生きる」「自分と向き合う」など、各学年、学級の実態に合わせて授業を行った。保護者は、道徳授業を参観し道徳教育の必要性を強く感じ、家庭でも話題としていきたいなどの感想をもった。

##### (3) 地域・保護者・学校が力を合わせる活動

夏休みに校区内の地域の人たちが利用する公園や河川敷の草取り、清掃活動に全校生徒で取り組んだ。登校時に通学路のごみを拾い、学校集合後にそれぞれの場所へ移動し、尾張旭市青少年

健全育成推進会議西中学校支部の方たちと保護者の協力を得て、夏の暑い午前中に一緒に奉仕作業を実施した。回収したごみ袋はかなりの数となった。今後も、定期的に駅、神社、公園、公民館周辺等の清掃活動に取り組んでいきたい。

#### (4) 地域伝統芸能「打ち囃子」を受け継ぐ活動

尾張旭市の伝統芸能には、「棒の手」「ざい踊り」「打ち囃子」がある。それらは、小学校の「総合的な学習の時間」の中で地域の保存会の人たちから教えていただいている。校区にある小学校では低学年でしめ太鼓を習い、高学年で横笛を習得する。6年間「打ち囃子」の稽古をし、毎年、全校発表を行っている。保存会の人たちの大きな問題は、受け継がれていく世代のことである。打ち囃子保存会の方たちも高齢化で、若い年齢層はほとんどいないのが現状である。また、尾張旭市に昔から住んでいるという人もわずかで、ほとんどの親が伝統芸能を知らず、興味関心も子ども以上に薄い。以前から市も危機感をもっており、中学生にもかかわりをもたせていきたいという思いはあった。伝承したい保存会の方の思いを生徒に伝えたところ、「是非やってみよう」という生徒が3年男女30人集まり、1学期から保存会の方の指導を受け、大太鼓、しめ太鼓、横笛の練習に取り組んだ。2学期の文化祭で舞台発表をし、合奏を聞いた在校生の中から「自分たちも是非やりたい」という次に繋がる言葉も聞いた。また、指導された保存会の人たちも「このかかわりを大切にし、中学生との交流も深めていきたい。明るい兆しが見えてきた」と前向きな気持ちをもっていただいた。何よりも80歳代の方たちが中学校を訪れ15歳の生徒に熱心に指導され、それを受けて真剣に練習する生徒の姿は、本校では今までには見られなかった。地域とのかかわりが深まった教育活動になった。

#### (5) 道徳集会（12月）「ミュージカル落語」－いじめについて考える－

人権教育と道徳教育を絡めて全校生徒に「共に助け合い、成長しあい、心を寄り添いながら、絆を深める」ことをテーマとして、道徳集会を行った。ミュージカル俳優出身落語家の三遊亭亜郎氏を講師に招いて「ミュージカル落語でイジメをなくそう！笑って笑ってポジティブシンキング」という演題で1時間30分の熱い落語講演を行っていただいた。亜郎氏は「教育が一番！」を掲げ、講演活動に力を入れている。平成23年度文化庁芸術祭参加作品に選考された「一口弁当」の落語を聴いた。生徒の感想は、『「人を見ているのは自分を見ている」というのが心に残った。何かの本で「自分を100%理解するのは無理。人は時と場合によって、言うことが変わる」というのを思い出しました。その理由がわかったような気がします。それは、人には陰と陽があってプラスにもマイナスにも考えられ、個人とういうフィルターを通すことにより、自分をより理解する。相手を思いやることができれば、人間関係も上手くなる。まずは、自分から変わらなければいけないことを今日の講演から学びました。』『人間、「嫌だな・・・」と思うことも、ポジティブシンキングで考えていくことで、いいことになっていくのかなと思いました。今日、歌ってくださったどの歌も素晴らしかったです。笑いながらピンチをチャンスに変える方法を教えてもらうことができよかったです。』などの前向きに生きることを強く感じた内容が殆どであった。人間は決して一人ではない。もちつもたれつ、みんなで一緒に笑い、一緒に泣く。思いやる心が絆を強くしていく。本物の気配り・気遣いとは、相手の気持ちを知り、自分を捨てなければいけない。自分が自分がという気持ちが強いと、ただの“気遣いの押し売り”になってしまう。相手を思いやることができれば、人間関係はうまくいく。ピンチをチャンスに変え、前向きに自分の足で歩いていくことと思いやりの心を常にもつことが今の自分たちには大切であることを考えさせる落語講演となった。

#### (6) 道徳集会（1月）「磨けば輝く、ダイヤモンドの君たちに」

講師 野口克海氏は大阪での教員生活、教育委員会、文部科学省、大学教授などの経験を通して多くの子どもたちや学生、教師、保護者と接してきた。野口氏は最初に「人は変えられる」という話をされ「自分の好きなこと、やりたいことを頑張ってみよう。頑張れる人は学力も伸びる」と努力し成功した教え子の話を聞いた。テニスの伊達公子さんとの対談を話され「夢・目標をもとう」目標のある人は強くなるという話も印象に残った。さらに、一番大切な人とのつながりと感謝の話から「自己肯定感を高めよう」「自分は一人ではない。友だちを大切にしよう」という話を熱く語られた。最後に「人は環境によって作られるが、環境を変えるのも人である」と力強く熱意が伝わってくる言葉もあった。これからの生徒たちに希望と勇気を与える講演であった。講演後に生徒は、「親への気持ち、親への感謝を忘れずに。そして生きる目標をしっかりと持ち、自分に負けない強い人間になりたい。」などの気持ちをもつことができた。

## 5 研究の評価

### (1) 研究の成果

道徳の研究を進めていく中で教師の「道徳の時間」に対する意識は変わってきている。今までの授業では、生徒にDVDを見せて終わっていたり、ワークシートに書かせても発表の場が十分でなかったりしていた。教師の求めている考えになるように教師が授業をまとめてしまっていたり、生徒が今日の道徳では何が言いたいのかを先読みして深く考えようとはしなかったりもした。また、専門教科は自信をもって指導できるが道徳の授業に関しては悩んでいる教師も多かった。しかし、外部講師からの指導で「道徳の授業がなぜ必要か」「道徳教育がなぜ大切なのか」を真剣に考えるようになった。どの学級も道徳の授業をオープンにし、誰もが授業を参観できるようになっている。これは、外部講師から学んだことを実行していこうとする前向きな気持ちの表れである。他の教師の授業を観て学ぶことは教師力の向上に繋がる。授業について活発な意見交換がなされ、道徳の授業が深められるのも大きな成果といえる。授業の始め、まずは今の考えを発表し最後にもう一度、同じ発問し生徒の心の変動を見る教材や授業展開などの工夫をしている。生徒が発言しやすい雰囲気作りと誰もが発言できる発問の仕方も考える。教師の押しつけではなく生徒が自分の考えをもち、伝え、他の人の考えを知り、自ら考え振り返る授業内容の工夫をしている。「自分の学級の生徒に今何が問題で何を必要としているのか」を常に考え、教材、授業の工夫をすることで生徒がどう変わっていくのかが楽しみでもある。今年度新たな取り組みとして、学校公開での一斉道徳授業公開を行った。保護者は道徳授業を参観し「道徳の時間」がとても大切であり、また、地域の方たちと一緒に奉仕活動や伝統芸能伝承活動に取り組むことで、「道徳教育は学校だけに任せるのではなく家庭や地域も協力し、共に考えこの町に住んでいる生徒たちをみんなで育てていかなければならない」ことを再認識した。

教師が生徒の実態を常に把握し課題とする点や伸ばしたい点について、学校全体で話し合い共通認識のもと道徳教育に力を入れていく。生徒の自己肯定感を高めさせ、何ごとにも積極的に取り組み、自信をもって自分らしく発言し行動できる力が伸びていくことを期待する。「思いやりの心」がもっと育っていくように全ての教育活動を通して考えさせ、誰もがここで学び育ったことを誇りに思えるような教育活動を今後も続けていきたい。「教師が変われば生徒も変わる。生徒が変われば学校も変わる」生徒も教師も優しい気持ちで学校生活が送れるように、「思いやりの心」を大切にしていきたい。

### (2) 今後の課題と取組

学校と家庭、地域社会との連携による指導の効果を高めていきたい。それには保護者や地域の人々との共通理解が欠かせない。学校で指導した内容は、家庭や地域の生活の中に反映されなければならないし、逆に家庭や地域での生活が学校の生活に生かされなければならない。

協力体制を充実させていくには、日ごろの交流が不可欠であり、互いの願いや活動を理解し合うために、「いつでもどこでも」を合い言葉とした「開かれた授業参観（保護者や地域の方が授業に参加し共に考える等）」の取り組みや、相互交流の場を増やし定例化することも考えていきたい。道徳の授業についての意見交換会や道徳教育推進教師が中心となって、生徒の道徳性の発達や願いについて話し合う機会もつくっていく必要がある。それらの話し合いから生まれた問題点などに着目した体験活動を企画し、相互に運営していくことで効果も期待できる。家庭との連携、地域社会との連携をより深く充実させるためにも「道徳の時間」における創意工夫と道徳教育における創意工夫は今後の課題ともなる。

さらに課題として取り組んでいくものとして、道徳教育の評価をどのようにしていくかである。評価のための資料に基づいて生徒一人一人の道徳性を評価するとともに、学級や学年の集団としての成長の姿を評価し、指導に生かしていけるような形にもっていきたい。道徳の時間は、生徒の人格そのものに働きかけるものであるため、その評価は難しい。しかし、可能な限り生徒の心の変容をとらえ、それらを日常の指導や個別指導に生かしていくように努めたい。道徳教育における生徒についての評価は、生徒が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、自己のより豊かな心の成長を実感することができるように、道徳の時間における評価も生かしながら取り組んでいきたい。